

令和5年度事業報告書

一般財団法人 日本自転車普及協会

目 次

I. 事業の概要	・・・ P 1
II. 事業の実施状況	・・・ P 4
1. 自転車競技の普及促進事業	・・・ P 4
(1) ツアー・オブ・ジャパン開催の全体管理に関する事業	
(2) ツアー・オブ・ジャパン東京ステージ開催・広報事業	
2. 自転車と人にやさしい健康で安全な社会づくりを推進する活動	・・・ P 8
(1) 自転車月間推進事業	
(2) 自転車文化センター運営事業	
(3) バイコロジー推進事業	
(4) 自転車ポタリング	
(5) 自転車利用実態調査	
(6) サイクルツーリズム推進事業	
3. コロナ禍の新様式自転車競技・自転車イベントの運営体制実証・分析調査研究事業	・・・ P 15
4. 自転車ADR事業	・・・ P 15
5. 自転車関連機器の普及等事業	・・・ P 16
6. 財団の運営に関する業務	・・・ P 16
III. 庶務事項	・・・ P 18
1. 会議(理事会・評議員会)	・・・ P 18
2. 監査	・・・ P 19
3. 赤坂インターシティAIR	・・・ P 19
4. 組織構成	・・・ P 19
別紙 役員名簿 評議員名簿	

I. 事業の概要

自転車は近距離交通手段・運搬手段としての利便性・経済性が高く、通勤・通学・買い物等広く市民生活の中で利用されてきた。加えて、現代人の健康志向を受けてスポーツ・レクリエーションの用具としての活用も高まってきている。また、国連サミットで「持続可能な開発目標SDGs」が採択され、地球温暖化防止が世界的な緊急課題となってきた中、その対策の一つとして自転車の無公害・省資源性が注目されていることなどから、一層の自転車利用が進んでいる。

しかしながら、自転車乗用環境はいまだ十分に整備されておらず、自転車利用者のモラルの低下などによる鉄道駅周辺や商店街地区等に見られる自転車の大量放置問題も十分に改善されているとは言い難い状況にある。また、交通ルール・マナーに関する教育も十分とは言えず、取り締まりも追いついていない中、自転車交通事故の減少は鈍く、未だに交通事故の約2割で推移している。特に、歩道上においての人と自転車の事故が目立っており、事故の補償を巡るトラブルの増加、賠償金の高額化など、深刻な社会問題となっている。

こうした中、平成29年5月1日付で『自転車活用推進法』が施行され、同法第12条で国土交通省に『自転車活用推進本部』を設置。当会が自転車月間推進協議会事務局として普及啓発してきた「5月5日は自転車の日」「5月は自転車月間」が同法第14条で定められた。

令和3年5月28日付で、第2次『自転車活用推進計画』が閣議決定・公表され、現在47都道府県・各市区町村においても順次自転車活用推進計画が策定されている。

また令和5年4月1日より改正道路交通法が施行され、全年齢の自転車利用者でヘルメットの着用が努力義務化されることに合わせて、警視庁が全ての地域警察官に自転車用ヘルメットを導入して着用させる方針となった。加えて令和5年8月30日より警察庁において「良好な自転車交通秩序を実現させるための方策に関する有識者検討会」が合計5回開催され、令和6年3月5日付で道路交通法の一部を改正する法律案が閣議決定がされ、将来的な自転車交通違反の取締強化と交通安全教育の拡充を目指している。

本会は、自転車活用推進本部を構成する全9府省庁・自転車関係団体等全17団体の一翼を担い、自転車活用推進本部が主催する『自転車活用推進官民連携協議会』にも参画していることから、今後、関係省庁や地方自治体とより一層積極的に連携し、自転車専用レーンの設置をはじめとする自転車の乗用環境の整備を積極的に押し進めていくとともに、さらなる道路交通法等関連法規の見直しを提起し、併せて、自転車利用者に対し交通規則遵守、マナーの向上を促す啓発活動を実践していくことが重要となっている。

令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症も5類に移行したことを踏まえて、自転車の普及を通じて、社会に健康と安心と感動を提供するべく、国民が自転車を安全かつ快適に利用できる環境の早期実現を目指し、自転車利用により得られる様々な社会的効用を広めるため、当会が運営する「自転車文化センター」を広く一般市民を対象とした情報発信拠点の1つとすると共に、自転車安全利用の普及啓発、環境の整備促進等に資する下記事業を、関係各方面の協力を得て実施した。

*なお、以下で【※】の事業については、(公財)JKAの公益振興補助事業として実施した。
また【※2】の事業については、(公財)JKAの機械振興補助事業として実施した。

1. 自転車競技の普及促進事業

(1) ツアー・オブ・ジャパン開催の全体管理に関する事業 【※】

(2) ツアー・オブ・ジャパン東京ステージ開催・広報事業 【※】

自転車競技を通じて青少年の国際交流と国民体育の向上に寄与することを目的に、5月の「自転車月間」主要行事として国際自転車競技連合(UCI)公認の自転車レース「ツアー・オブ・ジャパン2023」を、2019年以来4年ぶりに堺・京都・いなべ・美濃・信州飯田・富士山・相模原・東京の全8ステージ体制を復活し海外チームも招聘した上で、2023年5月21日～5月28日に開催した。

2. 自転車と人にやさしい健康で安全な社会づくりを推進する活動

(1) 自転車月間推進事業 【※】

「自転車月間(自転車の日/5月5日)」の趣旨を広く一般に周知するため、自転車月間記念行事「サイクルドリームフェスタ2023」を聖徳記念絵画館前通り(新宿区霞ヶ丘町)及び神宮外苑サイクリング道路において実施した。

また、2024年度5月の自転車月間事業に向けて、自転車月間推進協議会総会を開催した。

(2) 自転車文化センター運営事業 【※】

自転車利用方法に関する正しい認識と理解を深めるとともに、国内における自転車文化を醸成するため、本会が運営する自転車に関する総合情報提供施設「自転車文化センター」を中心に、次の事業を行った。

① 自転車に関する総合情報提供事業

自転車に対する市民及びメディアの関心は高く、各種自転車情報収集のニーズに対応するため、国内外の自転車関連資料及び情報の調査・収集を行った。

収集した資料・情報は、データベース等で管理し、研究成果と併せて、展示やスタッフの対応を通して来館者に提供した他、現物及びデータ資料等をメディアや自治体が主催するイベント等に貸し出しを行った。

また、当センターのホームページ、Facebook等SNSを活用し成果を広報した。

② 自転車に関する企画催事の実施 【※】

乗り手の体格・用途に合わせて自転車をオーダーメイドで作る、高い技術を持ったハンドメイドビルダーが製作した自転車や各種パーツ、また高齢者・障がい者向けの特種な自転車を一堂に会して紹介する「2024ハンドメイドバイシクル展」について、新型コロナウイルス感染症は概ね落ち着いてきていたが万全を期して感染症拡大防止対策を行い開催した。

③ 自転車に関するテーマ展示 【※】

自転車に関わる社会文化の歴史や自転車競技等について、当センター所蔵資料を中心に、最新の情報を加えた紹介・展示を実施。自転車に対する興味・関心を深めてもらうとともに、自転車の魅力や新たな活用方法等を発信するため、テーマを変えた展示を計3回開催した。

④ 自転車教室(楽しさと安全利用)

地方自治体等からの依頼を受けて、当センター学芸員、自転車安全教育指導員資格を有するスタッフが講師となり、主に小学生や高齢者を対象に、パワーポイントを使った座学講習や、当センター所有の自転車シミュレーターを活用した実技体験や反応速度の測定ができる機器を活用した体験コーナーなどを盛り込んだ出張形式の自転車交通安全教室8回開催した。また、夏休みと春休み期間中に「自転車乗り方教室(幼児から小学校低学年向け)」3回と「自転車科学教室」2回開催した。

⑤ 自転車常設企画展示

年間を通じて、多数の来場者がある千代田区の科学技術館(展示室名：自転車広場【※】)及び伊豆の日本サイクルスポーツセンター・ペロドロームにおいて、当センターの施設紹介と歴史的自転車の展示による広報活動を行った。

(3) バイコロジー推進事業 【※】

自転車の有効利用を奨励し、安全かつ快適に利用できる環境の実現を目指すバイコロジー運動を全国の地方組織と共に実施した。

駅前などの街頭においては、自転車乗用環境の啓発に関する事業として、自転車利用者のルール遵守とマナー向上を図るキャンペーン等や、バイコロジー運動のリーダーを育成し、自転車市民権運動の活性化を図ることを目的として、バイコロジー指導者養成セミナーを会場でリアル開催すると共に、ライブストリーミング配信も実施した。

(4) 自転車ポタリング

自転車は軽車両であり、車の仲間であり車道の左側を走行する乗り物であることを、一般の方に改めて知ってもらう機会として、参加者の方に楽しみながら自転車に乗ってもらい、自転車の正しい乗り方、ルールやマナー、車道走行する際の注意点等を学ぶ場を創出することを目的として企画した。

本年度は、令和6年3月2日(土)にポタリングを開催し、自転車による歴史散策の楽しみと自転車交通安全ルール・安全な走り方の啓発を実地で行った。

(5) 自転車利用実態調査

都内における自転車利用の実態を把握するための走行台数、走行空間等の調査を、年間を通して行う予定を元に、新型コロナウイルス感染症が令和5年5月8日以降5類に移行したことを踏まえ、本会役職員が自宅から事務所までの自転車通勤を促進することで実地調査を開始した。

(6) サイクルツーリズム推進事業

地方自治体等からの要請を受けて、自転車による地域活性化のためのコンサルティング・イベント実施等の相談を受けた。

3. コロナ禍の新様式自転車競技・自転車イベントの運営体制実証・分析調査研究事業【※2】

コロナ禍における新様式の自転車競技・自転車イベントの運営体制実証・分析調査研究事業として、2021及び2022年度に構築した運営体制をブラッシュアップし、本会3事業①自転車月間記念行事「サイクルドリームフェスタ2023」、②「ツアー・オブ・ジャパン2023」、③「2024ハンドメイドバイシクル展」において適用し、実施した。

3事業共に有観客にて実施するため、開催事前より運営や執務に参加するスタッフの健康観察を行い、検査体制を確保し、各事業に感染症対策のガイドラインを策定し、遵守した。

開催当日は、各会場共に感染症対策テント及び手指消毒液を設置し、体調不良者をテントに誘導して健康観察と診断を行う体制で実施し、感染症拡大リスクを最低限に抑える会場レイアウトを考慮して開催した。

また、3事業開催を通じて実証した感染症対策の効果の検証と、3年間にわたる調査研究の総括を行った。

4. 自転車 ADR 事業 注) ADR…裁判外の法的紛争解決手続きの総称

自転車関係団体の協力の下、法務省の認証を得た自転車 ADR センターにおいて、自転車が関係する交通事故を専門に扱う ADR の業務を、年間を通して行った。

5. 自転車関連機器の普及等事業

自転車競技運営に欠かせない映像機器、投票業務用機器等のリースを希望施行者に対して実施した。

また、自転車競技の円滑な運営と高い競技レベルの維持に資するため、競技用自転車タイヤに関し、本会で製品の備蓄を行い、利用者に販売する他、関連する自転車アクセサリーの販売も行った。

6. 財団の運営に関する業務

令和 5 年 5 月及び令和 6 年 3 月に通常理事会、令和 5 年 6 月に臨時理事会を開催し、令和 5 年 6 月に定時評議員会を開催した。また、評議員会終了後、令和 4 年度公益目的支出計画実施報告書を内閣府公益等認定委員会に提出した。

「自転車総合ビル」については、引き続き、管理運営・保守業務を行った。また、「赤坂インターシティ AIR」については、引き続き、同ビルの管理運営・保守業務を赤坂インターシティマネジメント㈱に委託し、安定的な不動産賃貸収益を確保した。

II. 事業の実施状況

1. 自転車競技の普及促進事業

(1) ツアー・オブ・ジャパン開催の全体管理に関する事業

(2) ツアー・オブ・ジャパン東京ステージ開催・広報事業

国内における自転車スポーツの振興を図ることを目的に、UCI(国際自転車競技連合)公認のステージレース「Tour of Japan 2023」を開催した。

今年度は、2019 年より続く新型コロナウイルス感染症が、5 月 8 日から感染症 5 類に移行されたことを受け、4 年振りに 8 日間 8 ステージ(堺、京都、いなべ、美濃、信州飯田、富士山、相模原、東京)のフルスペック、大会カテゴリーも 2.1 クラスへ戻し、海外チームも招聘して開催することができた。

海外チームは若手中心のチーム編成が多く、特に選手の平均年齢が 20 歳の TRINITY RACING の活躍が目立ち、エースのルーク・ランパーティ選手はステージ 3 勝、リアム・ジョンストン選手が新人賞を獲得した。

日本人選手では、JCL TEAM UKYO の岡篤志選手が信州飯田ステージ、チーム ブリヂストン サイクリングの窪木一茂選手が東京ステージでそれぞれ勝利を挙げた。

① スケジュール・コース・距離：総走行距離：722.3km

5 月 21 日(日) 1st 堺ステージ 13:35 スタート 天候：晴れ
大仙公園周回コース(個人タイムトライアル) 2.6km

5 月 22 日(月) 2nd 京都ステージ 9:45 スタート 天候：晴れ
普賢寺ふれあいの駅→けいはんなプラザ周回コース 103.6km

5 月 23 日(火) 3rd いなべステージ 9:30 スタート 天候：雨のち晴れ
阿下喜駅前→下野尻交差点～いなべ市梅林公園周回コース 127.0km

- 5月24日(水) 4th 美濃ステージ 9:15 スタート 天候：晴れ
 旧今井家住宅前→横越→美濃和紙の里会館前周回コース 137.3km
- 5月25日(木) 5th 信州飯田ステージ 10:00 スタート 天候：晴れ
 下久堅小学校グラウンド前→下久堅周回コース→下久堅小学校グラウンド前 120.9km
- 5月26日(金) 6th 富士山ステージ 10:30 スタート 天候：晴れ
 道の駅すばしり→ふじあざみライン→富士山須走口五合目 11.4km
- 5月27日(土) 7th 相模原ステージ 8:50 スタート 天候：晴れ
 橋本公園→旧小倉橋→串川橋→鳥居原ふれあいの館前周回コース 107.5 km
- 5月28日(日) 8th 東京ステージ 11:00 スタート 天候：晴れ
 東京都:品川区大井埠頭周回コース 112.0km

② 出場チーム：全16チーム(海外6チーム/国内10チーム)

【UCI コンチネンタルチーム】

- ・ JCL TEAM UKYO (JPN)
- ・ TERENGGANU POLYGON CYCLING TEAM (MAS)
- ・ ALMATY ASTANA MOTORS (KAZ)
- ・ キナンレーシングチーム (JPN)
- ・ TRINITY RACING (GBR)
- ・ 宇都宮ブリッツェン (JPN)
- ・ SOFER-SAVINI DUE-OMZ (ROU)
- ・ EF EDUCATION-NIPPO DEVELOPMENT TEAM (USA)
- ・ シマノレーシング (JPN)
- ・ マトリックス パワータグ (JPN)
- ・ 愛三工業レーシングチーム (JPN)
- ・ チーム ブリヂストーン サイクリング (JPN)
- ・ さいたま那須サンプレイベ (JPN)
- ・ GLOBAL 6 CYCLING (NZL)
- ・ ヴィクトワール広島 (JPN)
- ・ スパークルおおいた (JPN)

③成績：

■総合成績

各賞	対象者	国籍	所属チーム
個人総合時間賞	ネイサン・アール	(オーストラリア)	JCL TEAM UKYO
個人総合ポイント賞	ルーク・ランパーティ	(アメリカ)	TRINITY RACING
個人総合山岳賞	レオネル・キンテーロ・アルテアガ	(ベネズエラ)	ヴィクトワール広島
新人賞	リアム・ジョンストン	(オーストラリア)	TRINITY RACING
団体総合時間賞	JCL TEAM UKYO		

■ステージ優勝

ステージ	勝利選手	所属チーム
堺ステージ	ルーク・ランパーティ	TRINITY RACING
京都ステージ	ゲオルギオス・バグラス	マトリックス パワータグ

いなベステージ	カーター・ベトルス	ヴィクトワール広島
美濃ステージ	ルーク・ランパーティ	TRINITY RACING
信州飯田ステージ	岡 篤志	JCL TEAM UKYO
富士山ステージ	ネイサン・アール	JCL TEAM UKYO
相模原ステージ	ルーク・ランパーティ	TRINITY RACING
東京ステージ	窪木 一茂	チーム ブリヂストン サイクリング

④ 観客数：

ステージ	観客数	天候
堺ステージ	72,000 人	晴れ
京都ステージ	42,000 人	晴れ
いなベステージ	16,000 人	雨のち晴れ
美濃ステージ	22,000 人	晴れ
信州飯田ステージ	18,000 人	晴れ
富士山ステージ	7,800 人	晴れ
相模原ステージ	23,000 人	晴れ
東京ステージ	30,000 人	晴れ
計	230,800 人	

YouTube ライブストリーミング視聴者数：

ステージ	ライブ配信視聴者数 (最大同時接続数)	累計視聴回数 (2023/7/17 現在)
堺ステージ	1,468 人	17,994 回
京都ステージ	3,051 人	29,785 回
いなベステージ	3,487 人	28,669 回
美濃ステージ	3,549 人	24,774 回
信州飯田ステージ	3,579 人	29,778 回
富士山ステージ	2,909 人	29,861 回
相模原ステージ	3,965 人	45,759 回
東京ステージ	4,296 人	47,284 回
計	26,304 人	253,904 回

⑤ 広報： 以下のとおり、パブリシティ活動を実施した。

ア. 大会の告知と取材誘致及び自転車月間の趣旨の周知を図るため、プレスリリースを作成し、マスコミ各社に送付した結果、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・WEB にて多数取り上げられた。
(全 506 件)

イ. 大会告知のため、2023 年 3 月 30 日(木)14:00 から「Tour of Japan 2023 公式記者発表」を自転車総合ビル 6 階 601 号室から YouTube にて配信を実施した。

さらに、大会前日の 5 月 20 日(金)に注目選手を 5 名 (イエレン・メイヤス選手/TRENGGANU POLYGON CYCLING TEAM、ルーク・ランパーティ選手/TRINITY RACING、仮屋和駿選手/EF EDUCATION-NIPPO DEVELOPMENT TEAM、入部正太朗選手/シマノレーシング、ケイラム・オーミストーン選手/GLOBAL 6 CYCLING) を迎え、YouTube ライブ配信で前日記者会見を行った。

ウ. 大会告知ポスター及びチラシを作成し、4～5 月にかけて全国の関係団体等に配布・掲出したほか、公式ガイドブックを作成・配布した。また、大会公式ホームページを作成し情報の発信を行ったほか、Facebook、Twitter や Instagram 等の SNS を活用し情報発信を実施した。

エ. ツアー・オブ・ジャパン全ステージにて、ファンサービスの一環として、YouTube「BPAJ ch」にて全レース及び表彰式のライブ配信を行った。

放送日	番組名	配信時間
5/21(日)	Tour of Japan 2023 堺ステージ	13:35～
5/22(月)	〃 京都ステージ	9:45～
5/23(火)	〃 いなべステージ	9:30～
5/24(水)	〃 美濃ステージ	9:15～
5/25(木)	〃 信州飯田ステージ	10:00～
5/26(金)	〃 富士山ステージ	11:00～
5/27(土)	〃 相模原ステージ	8:50～
5/28(日)	〃 東京ステージ	11:00～

※また、ツアー・オブ・ジャパンに併せて次の大会を開催した。

a. 第 10 回堺国際クリテリウム

日時：2023 年 5 月 21 日(日) 11:15～12:00

場所：大阪府堺市 大仙公園周回コース

走行距離：堺ステージと同コースを 10 周

参加者：ツアー・オブ・ジャパン全出場選手 96 名

b. 第 9 回 JBCF(全日本実業団自転車競技連盟) 堺クリテリウム

日時：2023 年 5 月 21 日(日) 12:05～13:25

場所：大阪府堺市 大仙公園周回コース

走行距離：堺ステージと同コースを 6～8 周

参加資格：2023 年度登録完了者及び JBCF が特別に認めた者

参加者数：合計 81 名

c. 第 25 回全日本学生選手権クリテリウム大会

日時：2023 年 5 月 28 日(日) 9:20～10:35

場所：東京都品川区 大井埠頭内特別周回コース

走行距離：1 周 7.00 km×4～6 周

参加資格：2023 年度登録完了者

参加者数：合計 98 名

2. 自転車と人にやさしい健康で安全な社会づくりを推進する活動

(1) 自転車月間推進事業

「自転車月間」は、昭和 56 年 5 月に「自転車の安全利用の促進及び自転車駐車場の整備に関する法律」が施行されたことを機に、自転車の持つ社会的責任を自覚しつつ、改めて自転車の可能性とそれを取り巻く諸問題の解決策などについて検討する機会として設定された。

① 自転車月間推進協議会の開催

昭和 56 年度に関係省庁の後援を得て、自転車関係団体及び自転車月間の趣旨に賛同した公益法人等 39 団体(令和 5 年度においては 30 団体)によって「自転車月間推進協議会」が設置された。「自転車月間」の趣旨に沿った事業を重点的に実施することを目的として、事業報告・決算の承認を行った。

ア. 令和 5 年度第 1 回自転車月間推進協議会総会

日時：令和 5 年 7 月 25 日(火)

内容：令和 5 年度自転車月間事業報告、決算報告

イ. 令和 5 年度第 2 回自転車月間推進協議会総会

日時：令和 6 年 3 月 15 日(金)

内容：令和 6 年度自転車月間事業の実施計画・予算報告

② 「自転車の日」記念事業

「自転車月間(自転車の日/5 月 5 日)」及び月間趣旨のより一層の普及啓発を図るため、自転車月間「自転車の日」記念行事を開催した。

ア. 開催日時：令和 5 年 5 月 5 日(金・祝)10:00~16:00

イ. 開催場所：明治神宮外苑聖徳記念絵画館前通り及び神宮外苑サイクリング道路

ウ. 実施内容：

《ステージイベント》

1) 自転車メンテナンス講座 <協力:なるしまフレンド>

2) ピーポ君の自転車安全教室 <協力:警視庁交通総務課>

3) 下剋上！我らワールドトークショー改めメガネワールド上陸

<協力:中島康晴氏(JSPORTS 自転車ロードレース解説者)、栗村修ツアー・オブ・ジャパン大会組織委員会委員長>

4) 輪行実演ステージ <協力:アズマ産業株式会社>

5) BMX パフォーマンスショー×2 回(午前・午後)

<出演:一般社団法人 全日本フリースタイル BMX 連盟>

《体験イベント》

i. 自転車体験試乗コーナー

<メリダジャパン(株)、マヴィックジャパン(株)、プロショップタカムラ製作所、ヨネックス(株)、ミズタニ自転車(株)、(株)近藤機械製作所、和田商会自転車事業部、(株)サイクルスポット、(株)東商会、平和技術研究所、5Links Co. Ltd、(株)インターマックス、ジック(株)、(株)デイトナ、(株)トライスポーツ、(有)今野製作所>

ii. おもしろ自転車試乗会 <協力:(一財)日本サイクルスポーツセンター>

iii. BMX・MTB 子供乗り方教室 <講師:井手川直樹氏、三瓶将廣氏>

iv. 子供試乗コーナー2 か所

<協力:(株)サイクルスポット、(株)東商会>

V. 白バイ・パトカーと記念撮影 <協力:警視庁四谷警察署>

vi. 俊敏性テスト

vii. 発電自転車体験

viii. 自転車交通安全シミュレーター体験 <協力:東京都>

ix. サイクルトレーラー試乗コーナー

x. 「自転車月間」・「バイコロジー」・「ツアー・オブ・ジャパン」PRコーナー

xi. ブース出展

<自転車活用推進本部、東京都、警視庁交通総務課、警視庁四谷警察署、ライトウェイプロダクツジャパン(株)、(一社)さいたまスポーツコミッション、(一社)グッド・チャリズム宣言プロジェクト、(株)トキノカンパニー、バイシクルタウン青山、ジャパン・マウンテンバイク・カップ大会実行委員会、(株)和光ケミカル、チャリダー>

xii. パネル展示<自転車月間とは・バイコロジーってなに?・自転車はルールを守って楽しく乗りましょう・自転車は健康にどのようにいいのか?・自転車は愛すべき乗り物です/計5点>

エ. 入場者数: 4,135人

オ. 新企画イベント:

今年は、多様な自転車を多くのお子様に乗っていただきたいという目的から、「BMX・MTB 子供乗り方教室」を新たに開催し、午前の部・午後の部共に想定人数を超えるお子様にご参加いただいた。両自転車共に普段は乗る機会が少なく、乗り方の指導とともに、興味を持っていたことでお子様の自転車需要を促進することを狙いとして行った。

今回の乗り方教室は講師に指導を依頼して実施したが、イベント全体のアンケートでも、全参加者25名に対し、21名が「一番楽しかったコーナー」と高評価を得た。

またトークショーでは、元自転車ロード競技選手・中島康晴氏と栗村 TOJ 組織委員会委員長のコンビによる「下剋上!我らワールド改めメガネワールド上陸」を開催し、多いに好評を得た。

カ. 広報:

チラシ(5,000部)を作成し、4~5月にかけて、自転車関係団体や出展社メーカーなどに送付し、一般に配布を依頼した。

自転車専門誌(サイクルスポーツ6月号)への広告を掲載した。また本会ホームページ上での開催告知及び自転車愛好者のアクセス数が高いインターネットサイト(Cyclist等)や新聞、テレビなどへのプレスリリース配信等の広報を行った他、Facebook を活用し一般向けに告知を行うなど来場者の招致につなげた。

イベント当日は、会場に足を運ばない方々に向け、本会 YouTube チャンネルにてトークショーのライブ配信も行った。

さらに本年も、自転車関係をメインとした投稿に加え、様々な投稿を行っている「自転車インフルエンサー」5名(愛あむさん、YUKIさん、おおやようこさん、いそだみさきさん、fujicoさん)に SNS での事前告知投稿及び事後投稿をお願いし、更なるイベントの認知度向上や、より多くの方に告知できるよう努めた。

① 自転車インフルエンサーさん情報一覧

・愛あむさん: 使用 SNS Instagram、YouTube、Twitter 等

フォロワー数(Instagram: 2.7万人、YouTube:3.16万人、Twitter:2万人)

・YUKIさん: 使用 SNS Instagram

フォロワー数(Instagram: 2.6 万人)

- ・おおやようこさん：使用 SNS Instagram、YouTube、Twitter 等

フォロワー数(Instagram: 4,369 人、YouTube:1.77 万人、Twitter:8,424 人)

- ・いそだみさきさん：使用 SNS Instagram、YouTube

フォロワー数(Instagram: 4,369 人、YouTube:1.77 万人)

- ・fujico さん：使用 SNS Instagram、YouTube

フォロワー数(Instagram: 1.4 万人、YouTube:1.14 万人)

②ステージイベント・各出展ブースや体験コーナー・自転車試乗会の様子などを当日撮影し、イベントの紹介と告知を兼ねた動画を制作した。

③当日来場できない方や遠方の方向けにステージを YouTube にて LIVE 配信し、来場できない方にも観ていただけるよう工夫した。

※なお、今年においては厳選して 2 ステージを 1 回分として配信した。

キ. 感染対策：

5 月 8 日からの 5 類移行間近の開催であったことから、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策については救護テントを設けつつも体調不良の方のみを検温し、マスク着用は推奨のみで、参加者個人の判断をお願いして実施した。

i. 開催関係者・執務員は前日までに抗原検査を実施。

ii. 各ブース・テントには消毒液を配置。

iii. 試乗の際、ヘルメットキャップを配布した。

ク. イベント開催における環境に配慮した取り組み

- ・チラシ、ホームページ等で会場案内を掲載する際、公共交通機関の利用または自転車での来場を呼びかけ自転車駐輪ラックを設置。

- ・配布物は再生紙を利用し、配布できる範囲の数量を作成。

- ・会場で発生したごみの分別廃棄。

- ・会場装飾は簡素に、再利用可能な資材を使用。

(2) 自転車文化センター運営事業

自転車に関する正しい認識と理解を深め、自転車文化を醸成するため、本会が運営する総合情報提供施設「自転車文化センター」を拠点に、競輪からの支援による自転車イベント関連の補助事業或いは資料の収集、情報の提供および広報活動等を行った。

① 自転車に関する総合情報提供事業

国内外の自転車の実物・図書・映像ならびに関連資料及び情報の調査・収集を行い、収集した資料・情報は「自転車データベース」に登録して管理・保管し、来館者やマスコミ等に対して情報提供を行った。

【令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月の新規登録資料 707 点】

平成 26 年 4 月 2 日より目黒・自転車総合ビルに移転して 10 年目を迎えた自転車文化センターは、2,756 人(1 日平均 10.2 人)が来館された。来館者に対しては、問合せ・図書等資料貸出に対応すると共に、電話・FAX・e-mail による問合せや相談・質問 94 件に対して、ご依頼内容を解決するための相談対応や情報提供を行った。

また、令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月までの自転車文化センターホームページのページビュー件数は、174,937 件となった(*平成 10 年の運用開始からの述べアクセス件数は 3,496,874 件となっている)。

さらに、資料貸出・取材協力・監修協力・出演依頼に対する協力等の対応を行った。

【令和5年度…取材3件／協力19件／貸出一覧9件 計31件】

② 自転車に関する企画催事の実施

自転車の総合情報発信施設である自転車文化センターが、過去35年以上に渡って開催してきた『ハンドメイドバイシクル展』は、自転車に乗る人の体格や脚力、使用目的などに合わせて職人によって作り上げられたオーダーメイドの自転車等を展示するイベントであり、自転車スポーツ・サイクリング愛好家から好評を得ている。

新型コロナウイルス感染症は概ね落ち着いて来てはいたが、第10波とも言われていたため、感染症拡大防止対策を行った上で実開催した。

名称：『2024 ハンドメイドバイシクル展』

期間：令和6年1月20日(土)～1月21日(日)

場所：科学技術館1階1～5号催物場（東京都千代田区北の丸公園2-1）

来場者数：合計2,442名（20日1,198名／21日1,244名）

出展社：全44社(主催者展示6社含む)

内容：

ア. ハンドメイドビルダー独自の技術が施された自転車及びパーツの展示

イ. トークショー

㊦1月20日(土)13:30～14:30

「イタリアのハンドメイドバイシクル/自転車のデザインについて1」

アトリエキノピオ 安田マサテル氏

㊧1月20日(土)15:30～16:30「RAVANELLO 50年の轍とこれからのこと」

RAVANELLO/プロショップ高村製作所 高村精一氏、高村香代子氏

㊨1月21日(日)11:00～12:00 「自転車のデザインについて2」

株式会社TR アドバイザー:鶴岡篤人氏

フレームビルダー:岡崎壮也氏 デザイナー:橋本祐樹氏

㊩1月21日(日)15:00～16:00

「対談～これからの日本の趣味としての自転車スポーツについて語る～」

吉本司氏(ジャーナリスト、元サイクルスポーツ編集長)

×栗村修(TOJ組織委員会委員長)

トークショーファシリテーター

吉本司氏(ジャーナリスト、元サイクルスポーツ編集長)

小島裕樹氏(サイクリングラボ(株)代表、ジャパンハンドメイドバイシクルズコーディネーター)

ウ. 水なし洗車教室

シュアラスター×東京サイクルデザイン専門学校presents

2日間開催 参加費無料 ※各回5名様まで(予約制)

20日 ①10:30～11:25 ②11:30～12:30 / 21日 ①12:30～13:25 ②13:30～14:30

エ. 災害時対応自転車展示

災害時に活躍する浄水装置付自転車、持ち運びが簡単で小回りが利きノーパンクタイヤを装着した自転車などの展示を行った。

③ 自転車に関するテーマ展示

自転車文化センターギャラリー・ライブラリー・ショーウィンドウにて、企画したテーマ毎に所蔵資料を活用し、紹介するテーマ展示を開催した。自転車への親しみを深めてもらうとともに、自転車の新たな魅力・利用方法等について周知した。

ア. 名称 : 第1回テーマ展示「春～夏 自転車に乗ってみよう！」

期間 : 令和5年4月26日(水)～9月3日(日)

内容 : 自転車を利用する人の多くの目的は、通勤・通学・買物といった日常生活での軽快車の利用が主流となっているが、今回はそのような日常使いの自転車とはまた違った自転車の乗り方を提案した。自分の脚を使ってきれいな景色を観ながら少し遠くまで行ったり、そこでの美味しいものを食したり、ひとりでも仲間とでもきっと楽しめる時を作り出すことが出来るサイクリング。また、自転車のレースや他のパフォーマンスなども観てみるという楽しみ方の紹介をした。

入場者数 : 954名

イ. 名称 : 第2回テーマ展示「夏～秋 ギミック 仕掛けの世界」

期間 : 令和5年9月6日(水)～12月10日(日)

内容 : 自転車を折りたたむという考えは、自転車が生まれてからそれほど時間が経たないうちから考えられてきた。折りたたむことによって人の背や車や列車、飛行機など他の乗物などに載せて簡単に移動できる便利さを得て、自転車での旅の幅が広がった。また、都市部での住宅環境など自転車の屋内保管も可能になった。様々な折りたたみ方法が考えられ、現在もなお新しい折りたたみ自転車が開発されてる折りたたみのギミック(仕組み)の世界を紹介した。

入場者数 : 1,031名

ウ. 名称 : 第3回テーマ展示「自転車で運ぶ」

期間 : 令和5年12月13日(水)～令和6年3月31日(金)

内容 : 自転車は19世紀に発明されて以来、人間に最も身近な移動手段として様々な形で発達してきた。その中でも日本を含むアジア地域では、自転車は軽運搬の道具として「人」や「物」の運搬に密接に関わり、様々な種類と用途の自転車が作られ、使われてきた。

今回のテーマ展示ではこのような「人」や「物」を運ぶという側面から取り上げて自転車の展示の中から、運ぶアイデアや工夫の変遷を見ていくとともに、これからの自転車についても考えてみてもらう機会とした。

入場者数 : 667名

④ 自転車教室(楽しさと安全利用)

地方自治体等からの講習依頼に対して、当センター学芸員や自転車安全教育指導員資格を有するスタッフが講師となり、小学生や高齢者等を対象に、パワーポイントを使った座学講習や、当センター所有の自転車シミュレーターなどによる実技体験や反応速度の測定が出来る機器を活用した体験コーナーなどを盛り込んだ出張形式の自転車交通安全教室や各種教室を開催した。

【令和5年度…講演、講習会 計8件】

また、自転車の楽しみや魅力を伝えることを目指した各種自転車教室について、夏休みと春休み期間中に「自転車乗り方教室(幼児から小学校低学年向け)」を開催し各8名の参加があった。更に夏休みに「科学教室」を開催し自転車はなぜ倒れないのか?など自転車の簡単な歴史と原理を説明する教室を開催し16名の参加があった。

⑤ 自転車常設企画展示

年間約 50 万人（コロナ禍前）が来館する「科学技術館」（千代田区北の丸公園内）2 階に、歴史的自転車実物等の展示室『自転車広場』を出展した。

□展示場所：科学技術館 2 階 F 室（東京都千代田区北の丸公園 2-1）

□期間：令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日

また、年間約 10 万人（コロナ禍前）が来園する自転車のテーマパーク「日本サイクルスポーツセンター」（静岡県伊豆市）・ベロドロームにおいて、多数の来場者に対して自転車の歴史と利用促進を普及啓発する常設企画展示を行った。

(3) バイコロジー推進事業

① バイコロジー地方組織開催事業

現在、地球温暖化防止を目指した SDGs が世界的な緊急課題となっており、自転車の持つ可能性に大きな期待が高まっている。また、自転車乗用環境整備の立ち遅れ、自転車利用者モラルの低下などによる、放置自転車問題、交通事故の増加等が社会問題として派生しており、その解決を図ることが喫緊の課題である。こうした状況を改善していくための方策の一つとして、全国的な規模でバイコロジー運動を実施している。

バイコロジーとは「自転車が安全かつ快適に利用できる自然豊かで人間味あふれる社会の構築を目指す」を理念としており、その推進のため統一キャンペーン事業や各地域の組織が創意工夫した事業の展開を目指し、新型コロナウイルス感染症の 5 類移行以降、各地域で実施可能な方法で徐々に活動を再開した。

ア. バイコロジーをすすめる会総会

日時：令和 6 年 3 月 15 日（金）

議題：・令和 6 年度バイコロジー運動方針について

・令和 6 年度バイコロジー統一事業の概要について

イ. バイコロジー地域活動

令和 5 年度バイコロジー運動方針に基づき、バイコロジー地方組織の統一活動として交通ルールの遵守と自転車乗用マナーの向上を訴えるキャンペーン活動を春と秋の全国交通安全運動の期間及び 5 月の自転車月間期間中に実施し、全国的な普及啓発を企画した。

また全国のバイコロジー地方組織が行う独自の事業として、自転車乗用環境の整備促進、放置自転車の一掃、自転車交通事故の解消、自転車による健康づくり等をテーマにした各種事業が実施された。（参考：高齢者への自転車交通安全教室など自転車交通安全関係事業、視覚障がい者向けのタンデム自転車走行会など自転車による健康づくり等事業ほか）令和 5 年 5 月 8 日以降は、各地方組織が実施可能な範囲で事業を行った。

② 自転車セミナー開催

乗用時に CO2 を排出せず、環境に優しい乗り物である自転車利用を促進し、自転車の素晴らしさを広く普及啓発するために、自転車を取り巻く様々な問題を一般の方々と共に考え「自転車市民権」の確立を目指す場として、参加者のニーズに応えるため、その時々タイムリーなテーマを設定し、各界の第一線で活躍されている学識経験者や有識者を招聘し講演いただくことで、自転車の新たな情報の発信の場としての役割を創出することができた。

なお本年度は、会場における有観客開催と YouTube 配信を併用して実施、計 5 回開催した。

ア. 第 1 回自転車セミナー＜2023 年 9 月 28 日（木）18:00～19:30＞

講師：野村真成氏（本田技研工業㈱ 新事業開発部 ロボティクス事業ドメイン所属）

テーマ：「デジタル×自転車の未来 ～Smachari®の製作経緯とその展望～」

参加者数：会場 15 名※配信なし

イ. 第 2 回自転車セミナー＜2023 年 10 月 28 日(木)18:00～19:30＞

講師：中野喜文氏(鍼灸あん摩マッサージ師/GRUPPO ENNE 代表)

テーマ：「サイクリスト必見!!セルフボディーメンテナンス」

参加者数：会場 27 名／オンライン視聴 14 名

ウ. 第 3 回自転車セミナー＜2023 年 11 月 15 日(水)18:00～19:30＞

講師：綾部勇成氏(㈱和光ケミカル スポーツグループ所属/元ロードレース選手)

テーマ：「自転車メンテナンスセミナー 水を使わない洗車講座」

参加者数：会場 10 名／オンライン視聴 6 名

エ. 第 4 回自転車セミナー＜2024 年 1 月 30 日(火)18:00～19:30＞

講師：廣戸聡一氏(一般社団法人 REASH PROJECT 代表/廣戸道場主催/中部大学客員教授)

テーマ：「軸で乗る ～4 スタンス理論×5 ポイント理論～」

参加者数：会場 19 名※配信なし

オ. 第 5 回自転車セミナー＜2024 年 2 月 15 日(木)18:00～19:30＞

講師：福島圭介氏(㈱ピースフル代表取締役/(一社)日本救急救命士協会副会長)

テーマ：「感染症流行時における安心・安全なイベント開催を実現するための対策方法」

参加者数：オンライン配信のみ 視聴 185 名

③ バイコロジー地域リーダー養成セミナー

地方におけるバイコロジー運動のリーダーを育成し自転車市民権運動の活発化を図るため、自転車を安心して乗ることが出来る環境づくりや、今後の自転車のあり方等について情報交換するため、自転車普及啓発の専門家を講師にお招きして、下記のとおり地域リーダー養成セミナーを行い、終了後にバイコロジー地方組織各位と意見交換会を開催した。

講師：東京都市大学 建築都市デザイン学部 都市工学科 稲垣具志准教授

テーマ：「自転車事故の当事者とさせないために伝えることは?」

開催日：令和 5 年 11 月 30 日(木)13 時 30 分～15 時

参加者数：バイコロジー地方組織 15 組織 18 名、一般・関係団体 40 名 合計 63 名

(4) 自転車ポタリング

自転車は軽車両であり車の仲間として車道の左側走行が原則の乗り物であることを、一般の方に改めて知ってもらう機会を設け、参加者の方に楽しみながら自転車に乗ってもらい、自転車の正しい乗り方・ルールやマナー、車道走行する際の注意点を学ぶ場を創出することを目的に企画した。

本年度は、春の都内散策ポタリングをテーマとして、自転車による歴史散策の楽しみと自転車交通安全ルール・安全な走り方の啓発を実地で行った。

開催日時：2024 年 3 月 2 日(土)9:00～16:00 ※当初 2 月 23 日(金・祝)予定が降雨予報で延期

コース：自転車文化センター出発～麻布十番～芝公園増上寺～日比谷公園～神田明神～湯島天満宮～不忍池～浅草～向島百花園～ソラマチ～大横川筋～築地～新橋～愛宕神社～麻布十番～自転車文化センター到着／全行程約 42km

参加人数：一般参加者 1 名／本会役職員先導・最後尾等同行者 7 名

(5) 自転車利用実態調査

都内における自転車利用の実態を把握するための走行台数、走行空間等の調査である「自転車走

行状況の定点調査」について、本会役職員が自宅から事務所まで自転車通勤することを積み重ねることを通して、道路状況の確認や自転車利用者の現状確認を行った。

(6) サイクルツーリズム推進事業

自転車を活用した地域活性化を図るため、本会では自転車を活用した観光地域づくりを推進している地方自治体などの要請を受け、サイクリングの環境整備を行うための活動を行った。

本年度は、2023年10月6日～9日の間に初開催した「ツール・ド・九州」について、大会主催者事務局である(一社)ツール・ド・九州関係者及びブステージ開催誘致を目指す各県担当者と、2026年アジア自転車競技大会自転車競技担当者や東京都自転車活用推進担当者等、今後の自転車ロードレース大会・市民参加型ライドイベント開催に向けて尽力している関係各位に対し、情報提供等各種協力を行った。

3. コロナ禍の新様式自転車競技・自転車イベントの運営体制実証・分析調査研究事業【※2】

コロナ禍における新様式の自転車競技・自転車イベントの運営体制実証・分析調査研究事業として、①自転車月間記念行事「サイクルドリームフェスタ 2023」、②「ツアー・オブ・ジャパン 2023」、③「2024 ハンドメイドバイシクル展」の3事業において、2021・2022年度において構築・改良した感染拡大防止に努めた運営体制の実証と分析・検証を行った。

いずれの事業においても、当初計画では、執務者や参加者に対し、イベント開催事前の健康観察報告及び抗原検査陰性確認を必須とし、各会場は感染症対策専門内科医師による監修を受けたゾーニングや動線計画を作成し、来場者は必ず入場口となる検温所を通過する動線を確保、検温所内には看護師・救急救命士等の専門家を含めた検温スタッフを配置する計画を立てたが、2023年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを受けて、②「ツアー・オブ・ジャパン 2023」、③「2024 ハンドメイドバイシクル展」については、来場者に対して必ず検温所を通過する体制をあらためて、各会場内に感染症対策テントを設置し、体調不良者をテントに誘導して健康観察と診断を行う体制で実施した。

なお②「ツアー・オブ・ジャパン 2023」においては、大会開催期間中、一部のチームの監督・選手が発熱・体調不良を訴え、感染症対策チームの医師が診察・検査を行った結果、コロナ陽性・罹患が判明した。感染症対策チームの看護師・救急救命士により、感染者を自宅まで車で送り届けるという徹底した隔離措置を取ることに伴い、それ以上の感染の広がり・クラスターの発生を生じることなく無事大会を終了することが出来た。

こうした運営体制の実証・分析を実施したことにより、3年間に渡って構築した運営体制の有効性を改めて検証することができた。

さらに、それらの実施結果を報告書として取りまとめ、実施方法等のノウハウを国内UCIレース主催者等に情報提供を行おうと共に、上記②自転車セミナーにおいて第5回セミナーとして、感染症対策チームの現場リーダーである救急救命士・福島圭介氏が講師を務め、本件調査研究の成果を国内自転車スポーツ大会・関連イベントの運営関係者に向けて広くオンライン配信で公表・共有した。

4. 自転車ADR事業

本年度受付数7件、調停日数9回、和解成立数1件。

また、自転車ADRセンター会議を開催した。

(1) 令和5年度第1回自転車ADRセンター会議

- ・開催日時： 令和5年6月6日(火) 午後2時～
- ・議題： ア. 令和4年度自転車ADRセンター実施報告について
イ. 令和4年度自転車ADRセンター収支決算について

ウ. 自転車ADRセンター事業状況報告について
エ. その他

(2) 令和5年度第2回自転車ADRセンター会議

- ・開催日時： 令和5年9月5日(火) 午後2時～
- ・議 題： ア. 自転車ADRセンター事業状況報告について
イ. その他

(3) 令和5年度第3回自転車ADRセンター会議

- ・開催日時： 令和5年12月5日(火) 午後2時～
- ・議 題： ア. 自転車ADRセンター事業状況報告について
イ. その他

(4) 令和5年度第4回自転車ADRセンター会議

- ・開催日時： 令和6年3月5日(火) 午後2時～
- ・議 題： ア. 令和6年度事業計画について
イ. 令和6年度収支予算について
ウ. 自転車ADRセンター事業状況報告について
エ. その他

5. 自転車関連機器の普及等事業

投票業務用機器等の新機器導入のため、茨城県と新規にリース契約を下表のとおり締結した。

No.	リース先	契約日	リース物件・機器代金	リース期間
1	取手競輪場 (茨城県)	リース R5. 7. 15 工事 R5. 7. 19	場内映像配信制御装置 8,800,000円(税込)	5年 R5. 8～ R10. 7
2	取手競輪場 (茨城県)	リース R6. 1. 12 工事 R6. 1. 31	オッズ生成装置(4場併売) 31,031,926円(税込)	5年 R6. 2～ R11. 1
合 計			2カ所4契約	

また、自転車競技の円滑な運営と高い競技レベルの維持に資するため、競技用自転車タイヤ及び関連する自転車アクセサリについて、各競輪場からの注文を本会が取りまとめてメーカーに発注し、各競輪場を通じて利用者に販売した。

6. 財団の運営に関する業務

※理事会、評議員会等の詳細内容については、「Ⅲ. 庶務事項(P. 18～)」を参照。

令和5年6月22日、令和4年度公益目的支出計画実施報告書を内閣府公益等認定委員会に、電子申請により提出した。

「自転車総合ビル(目黒)」関係では、引き続き、ビルのオーナーとして、管理運営・保守業務を行った。

また、「赤坂インターシティAIR」関係では、引き続き、同ビルの管理運営・保守業務を赤坂インターシティマネジメント㈱に委託し、安定的な不動産賃貸収益を確保した。

*以下の事業については、(公財)JKA の競輪公益振興補助事業として実施した。

1. 自転車競技の普及促進事業
 - (1) ツアー・オブ・ジャパン開催の全体管理に関する事業
 - (2) ツアー・オブ・ジャパン東京ステージ開催・広報事業
2. 自転車と人にやさしい健康で安全な社会づくりを推進する活動
 - (1) 自転車月間推進事業
 - (2) 自転車文化センター運営事業
 - ・ 自転車に関する企画催事の実施
 - ・ 自転車に関するテーマ展示
 - ・ 自転車常設企画展示(科学技術館内自転車広場)
 - (3) バイコロジー推進事業

*以下の事業については、(公財)JKA の競輪機械振興補助事業として実施した。

3. コロナ禍の新様式自転車競技・自転車イベントの運営体制実証・分析調査研究事業

報告書等印刷物一覧(令和5年4月～令和6年3月作成分)

	印刷物	総部数
1.	ツアー・オブ・ジャパン 2023 ポスター(B2)	2,500
2.	ツアー・オブ・ジャパン 2023 チラシ(A4)	13,000
3.	ツアー・オブ・ジャパン 2023 ガイドブック(プログラム)	10,000
4.	ツアー・オブ・ジャパン 2023 テクニカルガイド	350
5.	ツアー・オブ・ジャパン 2023 報告書	2,200
6.	ツアー・オブ・ジャパン 2023 オフィシャルマニユアル	300
7.	自転車月間記念行事「サイクルドリームフェスタ 2023」 チラシ	5,000
8.	自転車月間記念行事「サイクルドリームフェスタ 2023」 報告書	400
9.	自転車安全利用促進キャンペーンパンフレット	28,000
10.	ハンドメイド展チラシ (A4)	2,000
11.	ハンドメイド展ポスター (A2)	60

Ⅲ. 庶務事項

1. 会議

(1) 理事会

①第 35 回理事会 (令和 5 年度第 1 回)

ア. 日時 令和 5 年 5 月 30 日(火) 14:00～

イ. 場所 自転車総合ビル 6 階 601 会議室

ウ. 決議事項

第 1 号議案 令和 4 年度事業報告の承認の件(決議)

第 2 号議案 令和 4 年度決算報告の承認の件(決議)

第 3 号議案 令和 4 年度公益目的支出計画実施報告の承認の件(決議)

第 4 号議案 定時評議員会の招集の決定についての承認の件(決議)

第 5 号議案 令和 5 年度競輪補助事業の実施に関する承認の件(決議)

第 6 号議案 事務局次長の選任に関する承認の件(決議)

第 7 号議案 経営計画の策定についての承認の件(決議)

第 6 号議案 職務の執行状況の報告(報告)

②第 36 回書面理事会 (令和 5 年度第 2 回)

ア. 日付 令和 5 年 6 月 15 日(木)

イ. 決議事項

第 1 号議案 代表理事選定の件

第 2 号議案 専務理事(常勤)選定の件

第 3 号議案 常勤理事の報酬の件

③第 37 回理事会 (令和 5 年度第 3 回)

ア. 日時 令和 6 年 3 月 26 日(火) 14:00～

イ. 場所 自転車総合ビル 6 階 601 会議室

ウ. 決議事項

第 1 号議案 令和 6 年度事業計画の承認の件(決議)

第 2 号議案 令和 6 年度収支予算の承認の件(決議)

第 3 号議案 就業規則に関する規程の一部改正についての承認の件(決議)

第 4 号議案 「在宅勤務」「時差出勤」取扱規程の制定についての承認の件(決議)

第 5 号議案 職務の執行状況の報告(報告)

(2) 評議員会

①第 12 回 (令和 5 年度) 定時評議員会

ア. 日時 令和 5 年 6 月 14 日(水) 14:00～

イ. 場所 自転車総合ビル 6 階 601 会議室

ウ. 決議事項

第 1 号議案 令和 4 年度(一財)日本自転車普及協会事業報告の件(報告)

第 2 号議案 令和 4 年度(一財)日本自転車普及協会決算報告の承認の件(決議)

第 3 号議案 令和 4 年度公益目的支出計画実施報告の件(報告)

第 4 号議案 理事の選任に関する承認の件(決議)

第 5 号議案 令和 5 年度(一財)日本自転車普及協会事業計画及び収支予算の件(報告)

2. 監査

(1) 監事監査

令和5年5月17日(水) 令和4年度決算監査

令和5年10月26日(木) 令和5年度上期業務監査

(2) 監査法人(清泉監査法人)による財務監査

令和5年5月8日(月)～9日(火) 令和4年度期末監査

令和5年12月18日(月)～19日(火) 令和5年度期中監査

3. 赤坂インターシティ AIR

(1) 赤坂インターシティ AIR 共有者集会

ア. 日時 令和5年6月23日(金) 17:00～

イ. 場所 赤坂インターシティコンファレンス 301 会議室

ウ. 議題

第1号議案 第7期(2023年度)赤坂インターシティ AIR 管理組合通常全体総会における議決権行使について

報告事項1 2022年度管理運営実績報告について

報告事項2 2023年度管理運営計画について

報告事項3 赤坂一丁目地区市街地再開発組合から承継した事業費の実績報告

報告事項4 中長期修繕計画策定・修繕積立金について

報告事項5 三会堂ビル建替え計画について

(2) 赤坂インターシティ AIR 修繕積立金に係る事前説明会

ア. 日時 令和6年2月13日(火) 17:00～

イ. 場所 赤坂インターシティコンファレンス 301 会議室

4. 組織構成

(1) 役員

役員(会長<非常勤>、専務理事、業務執行理事) 3名

非常勤理事 4名

非常勤監事 2名

(2) 評議員 6名

(3) 職員等

職員(男性8名、女性8名) 16名

嘱託 3名

傭員 2名

役員名簿

役 職	氏 名	役 職	氏 名
会 長	小 泉 昭 男	監 事	山 本 哲 郎
専 務 理 事	田 中 栄 作	監 事	設 楽 忠
業務執行理事	栗 村 修		
理 事	越 後 谷 修		
理 事	大 柳 博 明		
理 事	野 澤 隆 寛		
理 事	山 崎 一		

評議員名簿

(五十音順)

氏 名	所 属
浅野 祥三	元 公益財団法人日本レクリエーション協会 理事
入谷 誠	一般財団法人全日本交通安全協会 専務理事
小澤 豊	東京都自転車商協同組合 理事長
幸田 徳之	一般財団法人日本交通安全教育普及協会 専務理事
土屋 真人	一般財団法人日本サイクルスポーツセンター 常務理事
丸山 麻里子	消費生活アドバイザー